

特集

12月定期演奏会

次回定期演奏会は12月17日(土)!

演奏会の前に団員による演奏曲目の聴きどころをお楽しみ下さい♪

♪J.S.バッハ/松原勝也編曲 幻想曲とフーガ 八短調 BWV537

J.S. バッハはオルガン曲を約 200 曲は作曲しています。原曲の作曲年代はおそらくライプチヒ時代 (1723 年以降) と言われています。前奏曲は低音の長い持続音の上に悲痛な音楽が歌われます。対照的にフーガは厳格に満ちた音楽ですが、中間部では一転して穏やか音楽になります。短いながらも充実感のある作品です。この曲はイギリスの作曲家エルガーも晩年にオーケストラに編曲しています。編曲者の松原勝也氏(長崎初演)、エルガー編曲版と聴き比べてみるのも面白いと思います。

♪ハイドン 交響曲 第103番 変ホ長調 Hob.I:103 「太鼓連打」



ヨーゼフ・ハイドン (1732~1809) の交響曲は未完を含め 107曲あり、交響曲103番「太鼓連打」は、1794年から1795年にかけて作曲されました。後に第4楽章に手を加え現在は改訂版を元に演奏されています。第1楽章の冒頭と終わりにティンパニによる導入があり、これがこの曲の名前の由来となっています。ティンパニの連打は作曲者の指示(強弱など)が無く、当時は奏者任せだったそうです。今回の演奏では、どのような連打をするか? 楽しみの一つです。それに加え、第2楽章のバイオリン・ソロの美しいメロディーも聴き所です。

なかほら もと き
中原大幾 (ヴァイオリン)



♪ベートーヴェン 交響曲 第2番 二長調 Op.36

皆さん突然ですが、ハイリゲンシュタットという地名に聞き覚えはありませんか?

ベートーヴェン好きの方なら、ピンと来た人もいるはず。1802年、耳疾の悪化に悩んで有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いた場所です。実は、彼が交響曲第2番を作曲したのもこの場所、そして作曲された時期もその直後だといわれています。普通の人なら、遺書を書いた位ですから絶望感漂う暗い曲になりそうなものですね。ですが、そうならないのがベートーヴェンの凄いとコ! エネルギッシュで生きる喜びすら感じさせる交響曲を書き上げたのです。遺書を書いたことで今までの自分と決別したかのように、それからのベートーヴェンは次々と傑作を生み出していきます。きっと強い精神力の持ち主だったんでしょう。私だったら耳が聞こえなくなりながら音楽を続けていくなんて考えられません。

さて、その交響曲第2番は、後のベートーヴェンの作品に比べると演奏される機会も少なく影が薄い印象の曲ですが、古典派の影響を残しつつもベートーヴェンらしさがはっきりと感じられる隠れた名曲であることは間違いないでしょう。

勢いよく始まる第1楽章は小気味良く疾走し、第2楽章はクラリネットとホルンを主役に据え歌心にあふれています。第3楽章では交響曲の中で初めてスケルツォという表記が使われました。第4楽章は未来への希望を感じさせる華やかな楽章で、そこには青春を謳歌している青年の姿が浮かび上がるかのようです。

OMURAでも初めて演奏します交響曲第2番、どうぞお楽しみください。

ひぐちよしみ
樋口芳美 (クラリネット)



第22回 大村定期演奏会

シーハットおおむら・さくらホール

日時: 12月17日(土) 14:00開演(13:30開場)

料金: 全席指定(大人) 3500円(小中高生) 1000円 当日各500円増

● キャンプ 8月11日(木)～8月13日(土) / ● コンサート 8月14日(日) 各日共シーハットおおむら・さくらホール



毎夏の恒例となりましたミュージック・キャンプ。今年は、小学1年生から高校3年生までの33名が参加し、今までのキャンプ卒業生で音大等に通り大学生数名の方のお手伝いに加え、ゲスト講師の先生方とOMURA団員を含め総勢約50名での楽しいキャンプとなりました。(お泊まりはしません?)

これは、弦楽器を学ぶ子ども達のためのセミナーで、

最初の3日間は午後から合奏曲の練習、夜はオーディションを通過された方の室内楽の練習が行われ、子どもたちは講師の先生方の熱心なご指導をたくさん受けることができました。

「楽器を持たないでみんなで踊ってみようか!」、「この曲はどんな感じがするか、お話ししてみよう!」など松原先生のご提案に戸惑いながらも素直に反応する子どもたち、まさに音楽を通しての素晴らしい情操教育です。最終日には、みんな心を一つにして熱い演奏を披露してくれました。毎年このことなのに、アンコール曲を弾ききるとホール全体が感動の渦に包まれるのです。このキャンプは今年で8回目になりました。パトネージュ会員の皆様、来年も青いハットくんTシャツを着た子どもたちとシーハットで会えますように、何卒ご支援のほどよろしくお願い致します。

かわくち ちほ
川口千穂
(ヴァイオリン)

大村スクールコンサート

● 9月6日(火)・7日(水) 各日共シーハットおおむら・さくらホール



今年も、大村市内の小学5年生をホールに招いての演奏会を行いました。通常のクラシックコンサートとは一味違い、

それぞれの楽器の紹介やリズムを使ったオーケストラとの共演、演奏者が客席を歩きまわるパフォーマンスなど、楽しんでもらうための工夫がたくさんです。

すごい!楽しい!綺麗ななあ!そういった感動の体験は、子どもたちのピュアな心に素敵な思い出として刻まれることでしょう。

私たちはなんて素敵なお仕事をさせてもらっているのだろうといつも思います。

この日をきっかけに、またいつかコンサートホールへ足を運んでくれる日がきますように願っています。

まつもと
松本 さくら
(ヴァイオリン)

親子コンサート

● 9月22日(木・祝) シーハットおおむら・さくらホール



さくらホールに沢山の小さなお客様をお迎えして、「親子コンサート」の幕が開きました。一部は「ピーターと狼」。各楽器に与えられた、小鳥や猫などのキャラクターを「音で演じ」、子供達の輝く瞳の奥から想像力を引き出す…これは演奏家と聴き手の真剣勝負です。

物語を紡いでいくナレーターは村嶋芸術監督。今回は「劇団夢桜」さんにもご協力を頂きました。情報が溢れるこの時代に音楽だけで情景を描くことは少し難しい事かもしれませんが、この演奏会を通して地道に音楽の種を蒔き、大村に心豊かな子供たちが育っていくことを願います。

また二部で素晴らしい歌声で会場を盛り上げて下さったソプラノ歌手の村岡恵理子さんにも感謝いたします。終演後、フルートの吹き真似をする親友の愛娘(2歳)の動画が送られてきました、可愛すぎます。

次回はもっと賢くて凛とした小鳥になれるよう、また日々精進します!

ながとめ ゆか
永留結花
(フルート)

芸術監督だより

パトネージュ倶楽部会員の皆様、ぜひ、ぜひ、ご来場ください!!

日頃、OMURA室内合奏団をご支援いただき誠にありがとうございます。ここであらためて皆様方へお願いがございます。

OMURA室内合奏団発足以来13年目を迎え、認定NPO法人として、シーハットおおむらのオフィスを離れ独立いたしましたことお知らせいたしました。財源も見極めのないままに無謀にも立ちあげた理由には、子供たちに生の良い音楽を聴かせたい、長崎県在住または出身の音楽家に仕事の場を作りたい、という熱い思いがございました。それぞれに目的を達成しつつ活動を続けておりますが、ここで更なる願いといたしましては、もっと多くの皆様に音楽を楽しんでいただきたいということでございます。

シーハットおおむらのさくらホールは500席、来年5月予定しております長崎市民会館文化ホールは約1000席ございますが、いかにしてこれを満席にできるか、というのが目下の課題でございます。

バッハやベートーヴェンばかりでなく、もっとポピュラーな音楽を演奏するとご来場いただけるのでしょうか?

OMURA室内合奏団をご支援くださる皆様方には、やはりモーツァルトやハイドンなど、いわゆるクラシックと言われる音楽に親んでいただきたいと願っております。勿論、ポップス・コンサートも企画いたしますが、クラシック音楽が決して難しいものではなく、心を満たし、また癒してくれるものとご理解いただけますと嬉しく思います。

皆様方の変わらぬ温かいご支援を今後ともよろしく願いいたしますと共に一人でも多くの皆様方のご来場を切に願っております。

むらしま すみこ
村嶋 寿深子

私とOMURA室内合奏団

vol.11

私が音楽大学進学のために上京したのはもう随分前の話ですが…

卒業した後も東京近郊に住んで、演奏や音楽教室講師などの仕事をしていました。その後、全くヴァイオリンに触れることができなかった6年ほどの期間を経て、故郷の佐世保に戻ってきました。それはOMURA室内合奏団が発足する3年前のことでした。

それから、どうしてもヴァイオリン奏者として復帰したいと願い、一から練習やり直しの日々。長いブランクがある私には、ヴァイオリンを弾くための筋力は残っておらず、練習すればするほど腱鞘炎が悪化。技術的にも感覚的にも以前のように弾けず、辛くもどかしい時間を過ごしていました。

そして、地元での演奏活動を始めて、少しずつその感覚を取り戻していた時、その演奏を聴いてくださった方から、長崎県初のプロの合奏団を立ち上げるので参加してほしいと声をかけていただき、期待と不安の両方を抱えて合奏団発足の説明会に足を運びました。そこで初めてお会いした村嶋芸術監督に、途

轍もなく華やかなオーラを感じたことを覚えています。

当初は初対面のメンバーがほとんどで、少し心細かったのですが、間もなく和気あいあいでの仲の良い合奏団となりました。個性的なメンバーも多く、面白いこともたくさん起こります。

合奏団の活動がスタートして以来、国内外でご活躍の指揮者やソリストとの共演から得るものは大きく、また、団員としての演奏経験は、ますます感覚を取り戻す機会となり、以前のブランクからの不安も溶けて、さらに鍛えられ、向上心の源となっています。そして、復帰して良かったと心から思えるのです。

OMURA室内合奏団を応援して下さる皆さまと一体となって、より良き音楽を創造していけるよう、これからも精進いたします。末長くよろしく願いいたします。

まえだ すみか
前田純美加
(ヴァイオリン)

♪ 音楽と私

「私と音楽」について語るなら、半世紀前のあのピートルズ日本武道館ライブにまで遡ります。あの時の音楽は、小学三年生の私の幼い心に衝撃が走ったことを今でも覚えています。そして、その後に夢中にさせたのが、永六輔氏が司会をしていた「題名のない音楽会」でした。

普段の生活では、ゆっくりと音楽を聴く時間が無い日々ですが、仕事を通じて色んな人との出会いも多く、会社を経営する一人として、地元大村で文化面において何かのお役に立ちたいと思っていた時に、偶然にも今は亡き女性漫才師の大御所「内海好江」さんと出逢い、その繋がりを通じて今年七月にご逝去された「永六輔」さんと出逢うことができ、永さんのプロデュースで「大村寄席」がスタートしたのであります。

平成八年の第一回大村寄席から、多くの方々の笑顔を今

でも拝見することができ、ご支援頂いている皆様に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

「寄席」は、聴衆の心を癒す「語り」の力を持っており、その力は「音楽」と共通するものがあると思います。

最後に、「私と音楽」を語るならば、私の中に地元で“地域の皆様のお役に立ちたい”という願いがあり、そのツールの一つが「音楽」になるかもしれません。あの幼き頃の“ピートルズ”の音の響きが、もしかしたら、今の私の志の芽になったのかも知れないと自分勝手に振り返ったりしています。



ばば くにひこ
馬場 邦彦
(幸運トラック 社長)

Mi Chiamo

ミ・キアーモ

3つの質問で
メンバーを知ろう!

※ミ・キアーモとは、イタリア語で「私の名前は、○○○」の意。

- ① 自己紹介をご自由にどうぞ!
- ② ひそかなマイブーム
- ③ 最後に一言



ヴァイオリン
すずき ゆうこ
鈴木優子

- ① 横浜出身。埼玉・函館・千葉を経て、高校から長崎在住。韓国歴史ドラマと文房具が好き。悩みの種は、毎日の弁当作りと食欲。マイペースなA型(血液型)です。
- ② 多肉植物。手をかけなくても、たくましく生長しています。
- ③ 来年は、天命を知る歳?。音楽と共に、楽しく年を重ねたいと思っています。

① Buongiorno!
Mi chiamo Toshimi Kobayashi. Abito a Sasebo. Mi piace suonare il flauto. 勉強中のイタリア語で書いてみました!

② 物心ついた頃からずっと読書オタクです。宮下奈都の「羊と鋼の森」はピアノ調律師が主人公。クラシックファンの方は絶対おすすり!

③ OMURAに私が出現するのはかなりレアですので、もし遭遇された際にはお声かけ下さい。イタリア語や本や、もちろん音楽の話でもしましょう。



フルート
こばやし とし み
小林利美

ご支援ありがとうございます (10月25日 現在) 法人会員数 67件 (+2件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。個人会員数 167人 (-3人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集
後記

ベートーヴェンの交響曲♪それほど有名ではない曲の方が好きだったりします! 何故だろう(?_?)隠れた名曲第2番を是非さくらホールでお楽しみください(∩o∩) (さあり)

最近新しい趣味を探しています! いろいろ目移りしてなかなか見つかりません(O_O)今年中にはいい趣味にめぐりあいたいです! (いけっち)

最近ドライブが楽しくて仕方ありません(∩o∩)夜景スポットや美味しいお店が意外とたくさんある大村! これからもどんどん発見していこうと思います(∩.∩)ノ(えりな)